

11月の中小企業月次景況調査(茨城県)

〔令和3年11月末現在〕

令和3年12月13日
茨城県中小企業団体中央会

全体で、「景況」、「売上高」、「収益状況」の主要3指標DIを見ると、「売上高」「収益状況」は改善し、「景況」は変化がなかった。

業種別では、製造業の「景況」は悪化したが、「売上高」、「収益状況」は改善した。非製造業は「景況」、「売上高」、「収益状況」の全てで改善した。

非製造業の売上高と収益状況は大幅に改善され、全体の数値を押し上げた。一方で、資金繰りは全体で前月より悪化した。また、原料や資材の高騰や調達の違いの動きもあった。

景況DI

製造業は、前月比3.8ポイント悪化の▲34.6ポイント、非製造業は、前月比4.2ポイント改善の▲25.0ポイント、全体では、前月比増減なしの▲30.0ポイントとなった。

売上高DI

製造業は、前月比7.7ポイント改善の▲23.1ポイント、非製造業は、前月比20.8ポイント改善の▲4.2ポイント、全体では、前月比14.0ポイント改善の▲14.0ポイントとなった。

収益状況DI

製造業は、前月比3.8ポイント改善の▲38.5ポイント、非製造業は、前月比20.9ポイント改善の▲33.3ポイント、全体では、前月比12.0ポイント改善の▲36.0ポイントとなった。

茨城県中央会では、中小企業を取り巻く様々な環境の変化の下で、中小企業の発展を確保していくために中小企業の動向、問題点、要望等を機敏かつ的確に把握するために、中小企業で構成されている事業協同組合等の中小企業団体に情報連絡員を設置し、最新の「景況、売上高、収益状況、販売価格、取引条件」などの景気動向調査を実施しております。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
食料品製造業	学校給食パン	10月から本格的に学校給食が再開し、ほぼ正常に戻りつつある。しかし、8月の夏休みに加えて9月の新型コロナウイルス感染拡大による給食停止の影響で、収益の悪化が尾を引き、資金繰りに苦労している組合員もいる。	
	清酒	○県内全体の課税移出数量・業界全体の現状 当県10月の清酒課税移出数量は、前年同月比88.3%であった。再び前年同月比90%を切った実績となった。緊急事態宣言は解除されたが消費者はまだ用心して飲食を控えていると思われる。本格焼酎については、前年同月比92.6%であり、清酒同様マイナス幅は大きい。また、大規模な宴会が取り止めとなっており、年末・年始の宴席の売上に懸念を感じている。清酒の輸出については、地域や企業間で温度差があるもののコロナ禍で国内マーケットが不安定の中、輸出に力を入れて、令和3年9月の前年同月比輸出数量(全国ベース)は、110.4%と好調であった。コロナ禍が落ち着いている、香港・中国が好調で、香港・中国・米国で輸出の60%以上を売り上げている。 ○県内当業界について 新型コロナウイルスワクチンの接種も進んできており、緊急事態宣言も解除され、外飲みも増加しつつあるが、最大の需要期である年末年始のコロナ禍の状況と消費者の動向が懸念となっている。	
	納豆	緊急事態宣言の解除により、少しずつ観光土産用・業務用の納豆の売上を取り戻しつつある。一方で、一般消費者向けの納豆の売上については、前年同月比で10%以上減少している。	
	菓子	このところ、新型コロナウイルスの感染状況は県内でも感染者0の日も多くあり、お客様に笑顔が戻って来たように感じる。しかし、オミクロン株の感染者の発生に不安を感じる。	
繊維工業	袋物	業界の景況は様子見の状態が続き、例年通りの発注の動きはない。年が明けてから動きがあるのか、かなり不安な現況である。	
製 造 業	製材	荷動きは全体的に停滞しているが、杉の3m柱・桧4m土台の不足状態が続いている。原木価格については、杉は保合、桧は強保合で推移した。外材は全体的に荷動きが順調に推移した。住宅設備器具の価格高騰及び納期の遅れが出てきている。	
	木材・木材製品	県北地区プレカット	状況は前月と同様であるが、米松平角については発注からの納期が1か月程度となり、前月より短くなった。加工坪数は目標の60%であり、前月同様の実績であった。
	県央地区プレカット	大型物件の加工があり忙しい状況となった。木材の入荷状況は予定がつかめな部分もあるが、加工に支障がない状況で入荷されている。しかし、合板類の品不足により出荷の遅れが出るようになってきた。今後も合板やその他建材等の品不足により加工・出荷の日程調整も予想される。12月も大型物件の加工もあり忙しい状況が年内まで続く予想される。	
紙・紙加工品	段ボール	11月は前年同月比で受注量や売上等が改善した組合員が多かった。10月の落込み部分が11月に取り戻され、回復されたように感じる。年末に向けて忙しくなる時期なので、今年は期待したい。一方で、11月は顧客に生産増の動きはあったが、様々な部品が調達できないとの情報もあり、今後が心配される。	
印刷	総合印刷	前年同月と比較した状況は、低水準の不変である。紙からデータへの移行、ペーパーレス化は着実に進んでいる。これはコロナ禍が収束後も変わらないことと予想され、その不安感は大い。	
化学・ゴム	自動車部品	組合員の中には、売上等が順調なところもあるが、全体としては厳しさが増している。	
窯業・土石製品	陶磁器	新型コロナウイルスを巡る情勢もひと段落し、各種イベントや街中にも人流が戻ってきており、一安心している。この流れで年明けよりイベントの準備を進めたいと考えているが、新たな新型コロナウイルスも出てきており、先行きは不安である。	
鉄鋼・金属	鉄鋼	受注量は前年同月よりも10%程度増加。自動車関係の受注が増えてきた。設備・機械部品等の業種も増加傾向である。当月になって自動車関係の受注量が増えてきたが、年度始めから10月まで受注量が落ち込んでいたため、資金繰りが厳しい状況である。建築資材関係は数か月忙しい状況であった。金属材料は全て値上げ傾向にあり、高値で推移している。工業薬品については大きな変動はなかったが、今後は値上げの話が出てきている。燃料など石油製品の値上がりも資金繰りに影響している。	
一般機器	生産用機械	対象7組合員(製造会社)の売上状況は、前年同月比ですべて増加となった。全体増減率は前年同月比140%であった。主要取引先からの受注増加傾向が続き、当月も直近5年間で最大の売上高を確保。全組合員数は横ばいであるが、業績は堅調に推移している。	
輸送用機器	県北地区自動車部品	部品調達(半導体)の不調により、生産活動に大きな影響を及ぼしている。サプライチェーンの再構築が求められる。	

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	水産卸	精算所取扱高は、前年同月比3.43%増加。取扱高は多少増額になったものの、ほぼ全ての商品単価(鮮魚・カニ・秋鮭・イクラ・数の子等)が高値で推移しており、取扱い貨物量は伸びてはいない状況である。年末商材についても、高値で推移しているため、厳しい状況が続いている。
	セメント卸	袋セメントの出荷袋数は前年同月比18%の減少。全体的に建設土木工事が減少しており、袋出荷の減少に繋がっている。
小売業	県北地区共同店舗	売上は前年同月比107.3%、客数は同103.1%であった。店頭を設置しているアルコール消毒液の減り方が緩やかになってきた。危機意識の低下が新型コロナウイルス感染拡大の第6波に繋がらないか不安に感じている。
	県央地区共同店舗	館全体の既存店と新店の売上(客数)は前年同月比94%(93%)であり、前年よりも悪化した。部門別では、食品91%(93%)、飲食99%(98%)、ファッション101%(95%)となり、先月まで好調だった食品の売上減少が目立つ結果となった。新型コロナウイルスの感染者の減少に伴い外出(観光地)や外食が増え食品の売上が減少しているのではないかと推測する。また、笠間市プレミアム付商品券の利用開始が昨年より1か月早かったことで、当月の商品券利用者が減少した事も売上減の要因となった。
	県南地区共同店舗	緊急事態宣言が解除となり、また自粛ムードも和らいでいる為か館内、店内のムードも良くなっている様だ。客足、滞留時間も増えていると感じる。まだまだ売上には直結してはいないが、催事業者からの開催依頼の問い合わせも増えている。売上は前年同月比で全体102.4%、衣料品108.4%、文化品102.6%、食料品95.2%、飲食101.2%、サービス92.6%となった。前々年同月比の売上は全体90.2%、衣料品91.5%、文化品146.6%、食料品88.7%、飲食91.0%、サービス81.5%となった。
	家電	当月と来月の展開として4K8Kテレビ拡販キャンペーンを実施。年末商戦に突入し追い風としたいが、コロナ禍の影響で全メーカー品切れが続出して、販売に苦慮している。インターネット接続による動画配信サービスの視聴等新しい使い方を提案出来るように今後対応していきたい。
	燃料小売	原油価格の高騰が続いており、11月22日付のガソリンの小売価格は168.7円と前年同月比で35.6円も値上がりしている。その中で、政府は「コロナ下における燃料油価格激変緩和対策事業」や国家備蓄石油の一部放出等のこれ以上の価格上昇を抑える方策を打ち出しているが、高値が続いている。新型コロナウイルスの感染者が減少し、外出が予想される中で、ガソリン価格の高止まりは、販売量の減少に繋がると予想される。
	中古自動車	販売価格は前年同月比で115.1%と大幅に上昇したが、販売台数が同85.2%と落ち込んだため、売上高は同98.1%と前年同月を若干下回った。また、販売価格の上昇は、流通車不足により仕入価格が高騰しているため、販売価格の上昇が必ずしも収益に結びついておらず、新車製造の停滞が解消されるまでは厳しい小売環境が続くと予想される。
	食料品	食品流通業により、組合員はコロナ禍において食のライフラインを担っている。11月は売上の改善を見込んでいたが、消費者の購買行動は予想よりも鈍く、生鮮食料品を中心に売上と客数は前年同月割れで推移した。そうした中、総菜部門について前年同月比とほぼ同じ実績を残しており、コロナ禍後の生活様式の変化が見て取れる。今後も新型コロナウイルス感染予防を万全し「安心・安全」な店にして、近くの便利なお店にし、消費者のライフラインを担えるよう努めていきたい。
	野菜・果実	11月の取扱高は野菜果実合計で前年同月比101%となった。10月までと同様、引き続き全体的に単価安で推移。前年同月の売上高も低かったため、当月は前年同月比で101%となったが、前々年同月比であると84%となり、実態は低調である。好天候の影響で白菜やキャベツを中心に値を下げており、組合員の売上高の低迷を招いている。
商店街	水戸	衣料品等の物販の売上等は依然として厳しいが、飲食はGO TO EATキャンペーン事業の効果もあり、売上が増加している。
	筑西	原油高の影響により、様々な仕入れ商品の値上がりに繋がっている。新型コロナウイルスに加えて原油高と厳しい試練の連続である。
サービス業	自動車整備	組合員事業場の車両入庫状況指数である継続検査台数(持込検査)は、前年同月比で普通車が98.12%、軽自動車が107.00%(全体で101.56%)であった。前年同月比で普通車においては減少が見られたが、全体では例年並みとなった。
	ホテル・旅館	観光系施設の顧客の流入は、新型コロナウイルスの感染者数の減少と「いば旅あんしん割」の後押しもあり、徐々に好転しているが、前年と前々年同月と比較しても、売上・収益・入込客数ともに減数となっている。それに反してビジネス系施設では行動制限緩和を受け、ビジネスマンの積極的な営業活動等が反映されているのか、売上と収益ともに増加に転じている。
建設業	総合	技術者等の人手不足は依然深刻な状況である。技術者1人が担当できる工事の件数は建設業法で定められており、利益の少ない小規模工事の受注者が減る事が予想される。
	電気工事	コロナ禍の影響で資材調達が困難になってきており、工事が実施できずに納期に間に合わず、困っている組合員が出てきている。
	型枠工事	当月の業況は、前年同月と変わらない。今年も土木や建築の大型物件が発注されている。見積の依頼は、来年度の物件も来ている。但し、ウッドショックによる、木材の高騰と品不足が深刻な状況である。

非
製
造
業

報告者名
報告年月

茨城県中小企業団体中央会
令和3年11月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
非製造業	一軽貨物運送	当月の組合員数は116名、車輛台数は148台で前月と比較して増減なしとなった。また、運送売上高については、前年同月比137.8%と増加であった。全国連合会での当月の組合員数は7,241名、車輛台数8,593台で前月と比較して9名減少、42台減少であった。
	県北地区一般貨物	主要顧客の動向の影響で、一部物量増の製品も出てきたが、全体としては依然減少したまま継続している。一方、燃料価格は高値から更に上昇しており、収益も益々厳しい状況が続いている。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	学校給食パン	学校給食におけるパン給食回数増加
	清酒	緊急事態宣言も解除されたが、今後第6波の襲来が懸念される。再度緊急事態宣言が発令されることがあれば、酒の供給側への行政からの追加の月次支援金等の財務支援の速やかな対応をお願いしたい。 また、ワクチンにより重症者が増えない状況であれば飲食店での酒の提供の禁止ではなく、酒類の提供に関する新たなルールの策定をお願いしたい。
小売業	県央地区共同店舗	店舗の退店により収入が減少している。協同組合や店舗が活用できる補助金や助成金の情報を教えて欲しい。
	燃料小売	揮発油税に課税している二重課税の廃止。 コロナ禍が収束しつつあるので、経済対策等を実施していただきたい。
建設業	総合	現在の若年労働者、技術者不足は特に中小零細建設業者にとって重大深刻な問題であるということは行政側も自覚され数々の対策を行っていただいているが効果がみられない。新たな方策を進めていただきたい。
	型枠工事	今年も相変わらず、前期(4月～9月)に公共工事の発注が偏っていると感じる。なるべくであれば、1年を通して、平準化した発注を希望する。

月次景況調査 11月のD I（前年同月比）

項 目	全 体			製 造 業			非 製 造 業		
	11月	10月	前月比	11月	10月	前月比	11月	10月	前月比
景 況	▲ 30.0	▲ 30.0	0.0	▲ 34.6	▲ 30.8	▲ 3.8	▲ 25.0	▲ 29.2	4.2
売 上 高	▲ 14.0	▲ 28.0	14.0	▲ 23.1	▲ 30.8	7.7	▲ 4.2	▲ 25.0	20.8
収 益 状 況	▲ 36.0	▲ 48.0	12.0	▲ 38.5	▲ 42.3	3.8	▲ 33.3	▲ 54.2	20.9
販 売 価 格	0.0	4.0	▲ 4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	▲ 8.3
取 引 条 件	▲ 18.0	▲ 10.0	▲ 8.0	▲ 15.4	▲ 3.8	▲ 11.6	▲ 20.8	▲ 16.7	▲ 4.1

中小企業月次景況調査(令和3年11月)DI値(前年同月比)

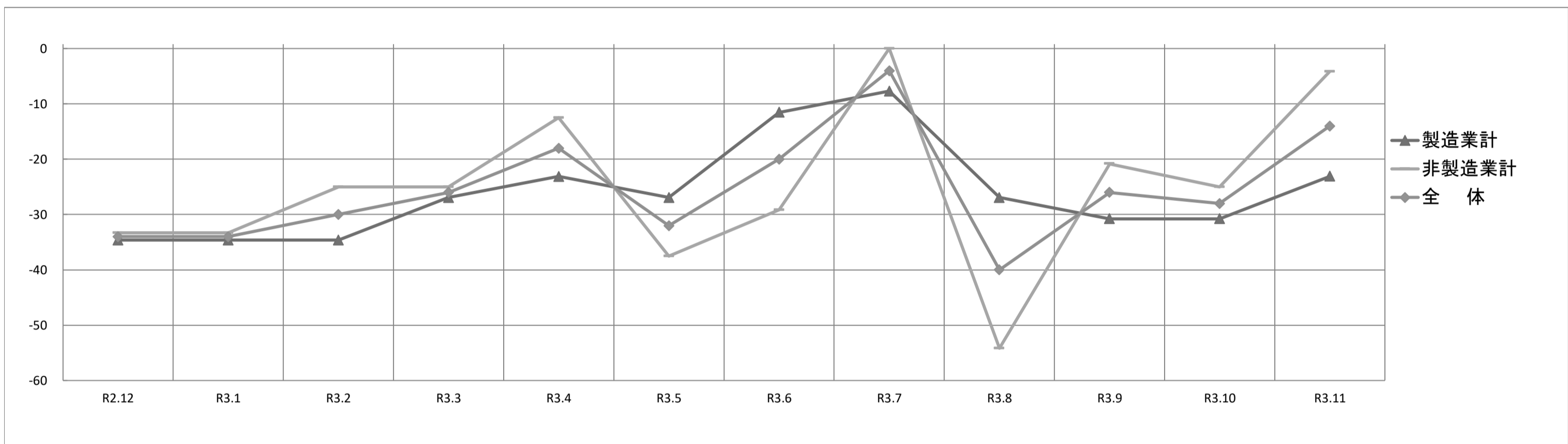
	売上高				在庫数量				販売価格				取引条件				収益状況				資金繰り				設備操業度				雇用人員				業界の景況													
	DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)														
		増加	不変	減少	業界数		増加	不変	減少	業界数		上昇	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		増加	不変	減少	業界数	好転	不変	悪化	業界数							
製造業	食料品	△ 66.7	0	2	4	6	0.0	1	4	1	6	16.7	1	5	0	6	0.0	0	6	0	6	△ 83.3	0	1	5	6	△ 66.7	0	2	4	6	△ 50.0	0	3	3	6	△ 50.0	0	3	3	6	△ 83.3	0	1	5	6
	繊維工業	△ 66.7	0	1	2	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	1	2	3
	木材・木製品	0.0	1	1	1	3	33.3	1	2	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	33.3	1	2	0	3	33.3	1	2	0	3	0.0	0	3	0	3
	紙・紙加工品	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	印刷	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	化学・ゴム	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1
	窯業・土石製品	0.0	1	3	1	5	0.0	0	5	0	5	20.0	1	4	0	5	0.0	0	5	0	5	△ 20.0	0	4	1	5	0.0	0	5	0	5	40.0	2	3	0	5	0.0	0	5	0	5	0.0	1	3	1	5
	鉄鋼・金属	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	一般機器	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1
	電気機器	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	輸送機器	0.0	1	1	1	3	0.0	1	1	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	1	2	3
製造業計	△ 23.1	5	10	11	26	3.8	3	21	2	26	0.0	2	22	2	26	△ 15.4	0	22	4	26	△ 38.5	1	14	11	26	△ 34.6	0	17	9	26	△ 7.7	4	16	6	26	△ 11.5	1	21	4	26	△ 34.6	2	13	11	26	
非製造業	卸売業	△ 33.3	1	0	2	3	33.3	1	2	0	3	0.0	1	1	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 33.3	0	2	1	3					0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	
	小売業 (商店街含む)	△ 16.7	3	4	5	12	△ 8.3	0	11	1	12	0.0	3	6	3	12	△ 33.3	0	8	4	12	△ 50.0	0	6	6	12	△ 33.3	0	8	4	12					△ 8.3	0	11	1	12	△ 41.7	0	7	5	12	
	サービス業	△ 50.0	0	1	1	2					△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2					△ 50.0	0	1	1	2	0.0	0	2	0	2		
	建設業	40.0	2	3	0	5					20.0	1	4	0	5	0.0	0	5	0	5	40.0	2	3	0	5	0.0	0	5	0	5					0.0	0	5	0	5	20.0	1	4	0	5		
	運輸業	50.0	1	1	0	2					0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2					0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2		
	非製造業計	△ 4.2	7	9	8	24	0.0	1	13	1	15	0.0	5	14	5	24	△ 20.8	0	19	5	24	△ 33.3	2	12	10	24	△ 29.2	0	17	7	24					△ 8.3	0	22	2	24	△ 25.0	1	16	7	24	
全体	△ 14.0	12	19	19	50	2.4	4	34	3	41	0.0	7	36	7	50	△ 18.0	0	41	9	50	△ 36.0	3	26	21	50	△ 32.0	0	34	16	50	△ 7.7	4	16	6	26	△ 10.0	1	43	6	50	△ 30.0	3	29	18	50	

D I 値推移表 (R2.12月 ~ R3.11月期)

《売上高の推移》

前年同月比	R2.12	R3.1	R3.2	R3.3	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11
食料品製造業	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 66.7
製造業(食料品製造業以外)	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 25.0	▲ 15.0	▲ 15.0	▲ 15.0	5.0	10.0	▲ 5.0	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 10.0
製造業計	▲ 34.6	▲ 34.6	▲ 34.6	▲ 26.9	▲ 23.1	▲ 26.9	▲ 11.5	▲ 7.7	▲ 26.9	▲ 30.8	▲ 30.8	▲ 23.1
卸売業	▲ 50.0	▲ 25.0	0.0	▲ 50.0	100.0	33.3	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 33.3
小売業(商店街含む)	▲ 36.4	▲ 36.4	▲ 36.4	9.1	▲ 16.7	▲ 58.3	▲ 41.7	▲ 8.3	▲ 66.7	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 16.7
サービス業	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	50.0	50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 100.0	▲ 50.0
建設業	0.0	0.0	20.0	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 20.0	0.0	0.0	20.0	40.0	40.0
運輸業	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	50.0	▲ 50.0	50.0	50.0	50.0
非製造業計	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 37.5	▲ 29.2	0.0	▲ 54.2	▲ 20.8	▲ 25.0	▲ 4.2
全体	▲ 34.0	▲ 34.0	▲ 30.0	▲ 26.0	▲ 18.0	▲ 32.0	▲ 20.0	▲ 4.0	▲ 40.0	▲ 26.0	▲ 28.0	▲ 14.0

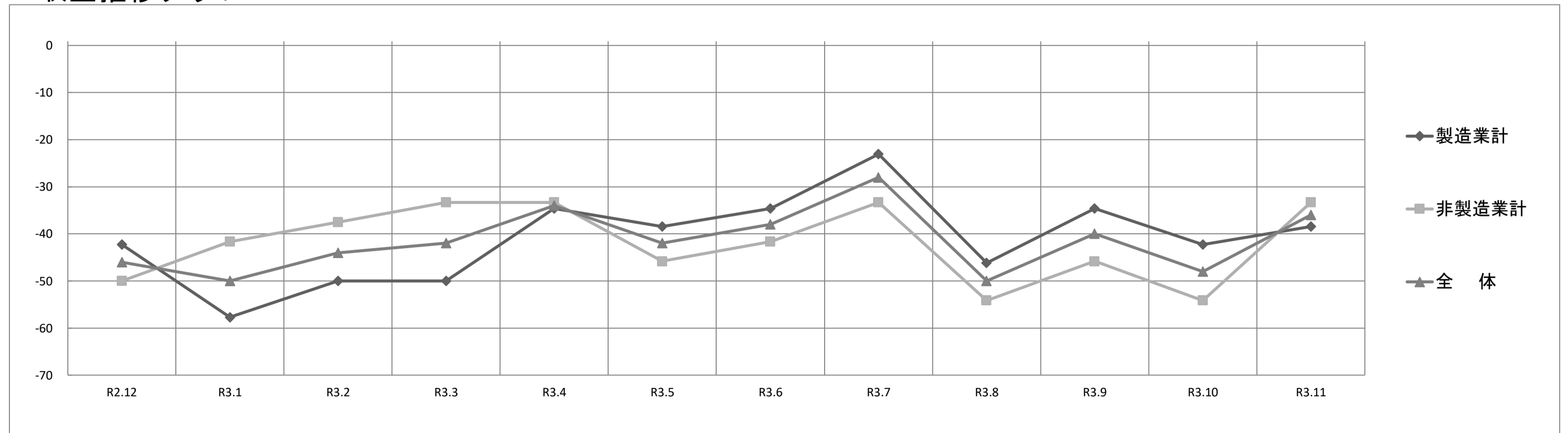
《売上高推移グラフ》



《収益の推移》

前年同月比	R2.12	R3.1	R3.2	R3.3	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11
食料品製造業	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3
製造業(食料品製造業以外)	▲ 35.0	▲ 55.0	▲ 45.0	▲ 50.0	▲ 30.0	▲ 35.0	▲ 30.0	▲ 15.0	▲ 35.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 25.0
製造業計	▲ 42.3	▲ 57.7	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 34.6	▲ 38.5	▲ 34.6	▲ 23.1	▲ 46.2	▲ 34.6	▲ 42.3	▲ 38.5
卸売業	▲ 25.0	▲ 25.0	25.0	▲ 25.0	33.3	▲ 33.3	▲ 66.7	0.0	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 100.0	▲ 66.7
小売業(商店街含む)	▲ 63.6	▲ 63.6	▲ 63.6	▲ 36.4	▲ 41.7	▲ 58.3	▲ 41.7	▲ 58.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 50.0
サービス業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
建設業	▲ 20.0	20.0	0.0	0.0	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0
運輸業	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 50.0	▲ 41.7	▲ 37.5	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 45.8	▲ 41.7	▲ 33.3	▲ 54.2	▲ 45.8	▲ 54.2	▲ 33.3
全体	▲ 46.0	▲ 50.0	▲ 44.0	▲ 42.0	▲ 34.0	▲ 42.0	▲ 38.0	▲ 28.0	▲ 50.0	▲ 40.0	▲ 48.0	▲ 36.0

《収益推移グラフ》

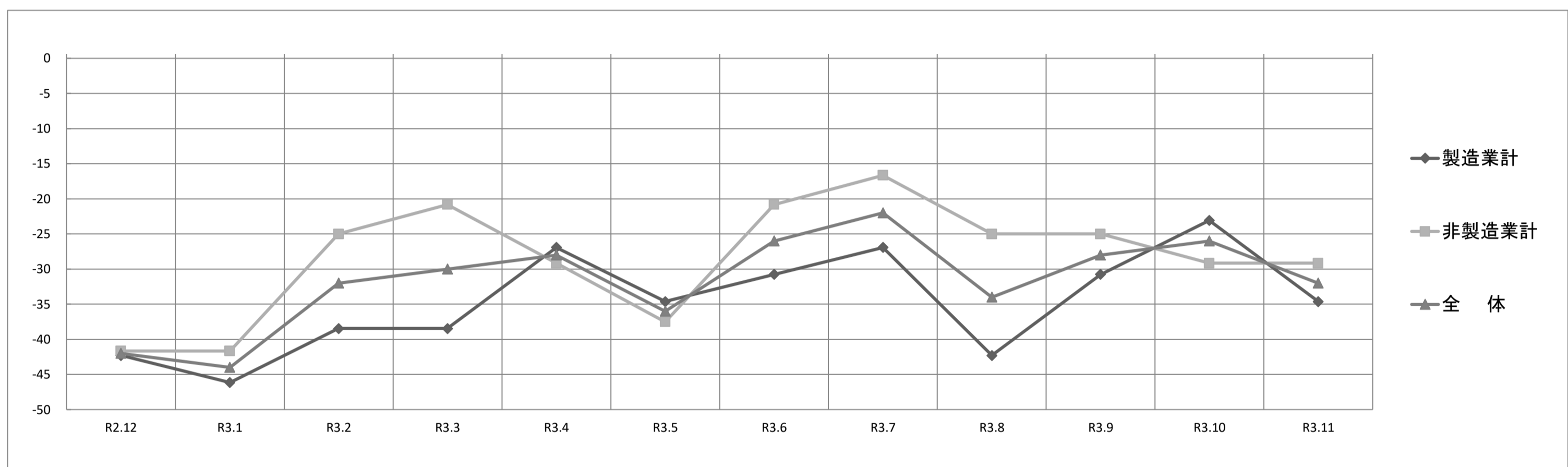


D I 値推移表 (R2.12月 ~ R3.11月期)

《資金繰りの推移》

前年同月比	R2.12	R3.1	R3.2	R3.3	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11
食料品製造業	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 66.7	▲ 66.7
製造業(食料品製造業以外)	▲ 35.0	▲ 40.0	▲ 30.0	▲ 35.0	▲ 25.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 15.0	▲ 10.0	▲ 25.0
製造業計	▲ 42.3	▲ 46.2	▲ 38.5	▲ 38.5	▲ 26.9	▲ 34.6	▲ 30.8	▲ 26.9	▲ 42.3	▲ 30.8	▲ 23.1	▲ 34.6
卸売業	▲ 25.0	▲ 25.0	25.0	▲ 25.0	33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	0.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3
小売業(商店街含む)	▲ 63.6	▲ 63.6	▲ 45.5	▲ 18.2	▲ 41.7	▲ 58.3	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3
サービス業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
建設業	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
運輸業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 25.0	▲ 20.8	▲ 29.2	▲ 37.5	▲ 20.8	▲ 16.7	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 29.2	▲ 29.2
全体	▲ 42.0	▲ 44.0	▲ 32.0	▲ 30.0	▲ 28.0	▲ 36.0	▲ 26.0	▲ 22.0	▲ 34.0	▲ 28.0	▲ 26.0	▲ 32.0

《資金繰り推移グラフ》



《景況の推移》

前年同月比	R2.12	R3.1	R3.2	R3.3	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11
食料品製造業	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3
製造業(食料品製造業以外)	▲ 30.0	▲ 55.0	▲ 35.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 40.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 15.0	▲ 15.0	▲ 20.0
製造業計	▲ 38.5	▲ 57.7	▲ 38.5	▲ 34.6	▲ 34.6	▲ 42.3	▲ 38.5	▲ 30.8	▲ 42.3	▲ 30.8	▲ 30.8	▲ 34.6
卸売業	▲ 50.0	▲ 50.0	50.0	▲ 25.0	0.0	▲ 33.3	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 33.3
小売業(商店街含む)	▲ 63.6	▲ 54.5	▲ 45.5	▲ 18.2	▲ 25.0	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 50.0	▲ 58.3	▲ 41.7	▲ 41.7
サービス業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	0.0
建設業	▲ 20.0	0.0	0.0	▲ 40.0	▲ 40.0	0.0	0.0	▲ 20.0	0.0	20.0	20.0	20.0
運輸業	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 54.2	▲ 45.8	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 29.2	▲ 33.3	▲ 41.7	▲ 37.5	▲ 45.8	▲ 45.8	▲ 29.2	▲ 25.0
全体	▲ 46.0	▲ 52.0	▲ 32.0	▲ 34.0	▲ 32.0	▲ 38.0	▲ 40.0	▲ 34.0	▲ 44.0	▲ 38.0	▲ 30.0	▲ 30.0

《景況推移グラフ》

